

令和8年度年間指導計画

長手県立総合高等学校

教科	国語	学年	1	教科書	高等学校 総合版 標準国語文化(第一学習社)
科目	言語文化	クラス	A・B(習熟度別授業による2分組)	副教材	新・コンピタ 国語文化
		単位数	2	担当者	小笠原友希・樋水菜葉子

言葉による思考・交流を軸に、言語活動を通して、言語の理解・理解・効果的に表現する能力・能力を次のとおり育成することを目指す。
 (1) 言葉にわたる社会生活に必要な語彙の知識や技能を身に付け、自分の国語文化に対する理解を深めることができる。
 (2) 論理的に考え方や考え方を整理し、自分の考えや考え方を表現し、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。
 (3) 言葉が文化や社会への影響を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の国語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者と社会に関わろうとする態度を養う。

学習を通して歴史的な変遷や言語の真実に慣れる。
 題材を読み、構成や内容を理解する。習得のグループで考え、交流する。
 国語の用法や表現を分析し、現代語に引き継ぐ。
 法・各種課題に取り組み、基礎基本の定着を図る。

評価の観点	学習の観点	評価項目の詳述
知識・技能	学習の観点	学習の観点
思考・判断・表現	学習の観点	学習の観点
主体的に学習に取り組む態度	学習の観点	学習の観点

本指導計画については、各学年の履修表において学習内容に応じて適切に記述しています。

学期	単元(題材)	学習活動	単元の評価規準			評価方法
			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
前期中間	【日本文学編】近代と今	<ul style="list-style-type: none"> ○ 題の母字の登場に始まる語の構成、展開を分析し、読み手や行動から人物像や心情を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 小説という文章の種類を踏まえて、内容や展開、展開などを的確に理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ○ わが国の国語文化についての理解を深め、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 小説を捉えているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 小説を捉えているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
前期末	【日本文学編】古文 枕草子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自由記述された文章を捉え、読み手や行動から人物像や心情を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 枕草子という文章の種類を踏まえて、内容や展開、展開などを的確に理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 枕草子という文章の種類を踏まえて、内容や展開、展開などを的確に理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 枕草子という文章の種類を踏まえて、内容や展開、展開などを的確に理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
後期中間	【日本文学編】近代 浮城物語	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自由記述された文章を捉え、読み手や行動から人物像や心情を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 浮城物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開、展開などを的確に理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 浮城物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開、展開などを的確に理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 浮城物語という文章の種類を踏まえて、内容や展開、展開などを的確に理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
後期末	【日本文学編】古文 徒然草	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自由記述された文章を捉え、読み手や行動から人物像や心情を読み取る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 徒然草という文章の種類を踏まえて、内容や展開、展開などを的確に理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 徒然草という文章の種類を踏まえて、内容や展開、展開などを的確に理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ 国語の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 徒然草という文章の種類を踏まえて、内容や展開、展開などを的確に理解している。 ○ b 作品に書かれているものの見方・考え方を捉え、内容を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 語句の量を増やし、語彙を豊かにしている。 ○ b 読書の意義と効用を理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
後期末	【日本文学編】古文 和歌の伝統と継承	<ul style="list-style-type: none"> ○ 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ b 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ b 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ b 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ b 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート
		<ul style="list-style-type: none"> ○ 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ b 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ a 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 ○ b 和歌の歴史や文化の発展について、関心・関心をもち、主体的に学習に取り組む態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ノート提出 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業態度 ○ 発言、話し合いの様子 ○ 指名書読 ○ ワークシート

学期	評価の観点	単元(題材)	学習活動	単元の評価規準	評価方法
前期中間	知識・技能	35	25	10	
	思考・判断・表現	35	25	10	
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30	
前期末	知識・技能	35	25	10	
	思考・判断・表現	35	25	10	
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30	
後期中間	知識・技能	35	25	10	
	思考・判断・表現	35	25	10	
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30	
後期末	知識・技能	35	25	10	
	思考・判断・表現	35	25	10	
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30	

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	地歴・公民	学年	1	教科書	地理総合 改訂版 世界に学び 地球へつなぐ(山川出版社) 新詳高等地図(帝国書院)
科目	地理総合	クラス	A・B	副教材	地理総合改訂版ワークブック(山川出版社)
		単位数	2	担当者	竹谷 涼太

学習目標	(1) 社会的な事柄や現象に対して、地理的な見方・考え方を働かせて、課題を追究したり解決したりする活動ができる。 (2) 広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる国際人として、知識や技能を身につける。 (3) 平和で民主的な国づくりに参画できるような社会人としての思考力・判断力・表現力を伸長する。								
学習方法	(1) 単元に関する学習プリントを通して、必要とされる知識を予習・復習する。 (2) 単元ごとに設定するテーマ学習のワークシートや活動自体を通して、情報活用能力の技能を習得したり、見方・考え方を磨いたりする。 (3) 単元のポイントを説明したり、テーマ学習の取組を発表したりする言語活動を通して、傾聴力や伝達力を成長させる。 (4) 授業での学びを、再現する機会に發揮したり、社会で役立てるために自分事として捉えたりする意識を深める。								
学習評価	<table border="1"> <tr> <th>評価の観点</th> <th>当該科目の評価の趣旨</th> </tr> <tr> <td>a 知識・技能</td> <td>地図や地理情報システムを用いて、必要な情報を適切かつ効果的に調べてまとめる技能が身に付いている。世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的規模の課題への取組を理解している。</td> </tr> <tr> <td>b 思考・判断・表現</td> <td>地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境の相互関係・作用に着目して、多角的・多面的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、そのことを伝える力が養われている。</td> </tr> <tr> <td>c 主体的に学習に取り組む態度</td> <td>地理に関わる諸事象について、見受けられる課題を主体的に解決しようとする態度や、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする態度が養われている。</td> </tr> </table> <p>定期考査については、上記a, b, c の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。</p>	評価の観点	当該科目の評価の趣旨	a 知識・技能	地図や地理情報システムを用いて、必要な情報を適切かつ効果的に調べてまとめる技能が身に付いている。世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的規模の課題への取組を理解している。	b 思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境の相互関係・作用に着目して、多角的・多面的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、そのことを伝える力が養われている。	c 主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、見受けられる課題を主体的に解決しようとする態度や、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする態度が養われている。
評価の観点	当該科目の評価の趣旨								
a 知識・技能	地図や地理情報システムを用いて、必要な情報を適切かつ効果的に調べてまとめる技能が身に付いている。世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的規模の課題への取組を理解している。								
b 思考・判断・表現	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境の相互関係・作用に着目して、多角的・多面的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、そのことを伝える力が養われている。								
c 主体的に学習に取り組む態度	地理に関わる諸事象について、見受けられる課題を主体的に解決しようとする態度や、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする態度が養われている。								

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 地図とGISの活用	1 球面上の世界 2 世界から見た日本の位置と領域 3 国内や国家間の結びつき 4 暮らしのなかの地図とGIS	○	○	○	a: 地図等の諸資料から、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 地図等の諸資料から課題を捉えて、必要とされる観点を考察し表現している。 c: 地図等の諸資料から関心を高め、意欲的に追求し、生き方と関連させようとしている。	① 授業態度、活動の姿勢 ② 学習プリント、ワークシートの点検 ③ 活動成果物の出来ばえ ④ 小テスト、定期考査
	第2章 地理的環境の特色	1 地形と生活文化 2 気候と生活文化	○	○	○	a: 地理的環境の特色を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 地理的環境の特色から課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から考え表現している。 c: 地理的環境に対する関心を高め、課題を意欲的に追求し、生き方を考察しようとしている。	① 授業態度、活動の姿勢 ② 学習プリント、ワークシートの点検 ③ 活動成果物の出来ばえ ④ 小テスト、定期考査
前期末	第2章 地理的環境の特色	3 産業と生活文化 4 宗教・言語と生活文化	○	○	○	a: 世界各地の生活文化を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 世界各地の生活文化から課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から考え表現している。 c: 世界各地の生活文化に対する関心を高め、その違いを見つめ共生できるあり方を意欲的に追求し、考察しようとしている。	① 授業態度、活動の姿勢 ② 学習プリント、ワークシートの点検 ③ 活動成果物の出来ばえ ④ 小テスト、定期考査
	第3章 世界各地の生活文化	1 経済発展と生活文化の変化 2 宗教の多様性と生活文化 3 水の恵みと生活文化 4 イスラム社会の多様性と生活文化	○	○	○	a: 世界各地の生活文化を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 世界各地の生活文化から課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から考え表現している。 c: 世界各地の生活文化に対する関心を高め、その違いを見つめ共生できるあり方を意欲的に追求し、考察しようとしている。	① 授業態度、活動の姿勢 ② 学習プリント、ワークシートの点検 ③ 活動成果物の出来ばえ ④ 小テスト、定期考査

後期中間	第3章 世界各地の生活文化	5 多様な気候と生活文化 6 経済統合による生活文化の変化 7 寒冷な気候と生活文化 8 グローバル化による生活文化の変化 9 土地の開発による生活文化の形成 10 植民と移民による生活文化の形成	○	○	○	a: 世界各地の生活文化を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 世界各地の生活文化から課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から考え表現している。 c: 世界各地の生活文化に対する関心を高め、その違いを見つめ共生できるあり方を意欲的に追求し、考察しようとしている。	① 授業態度、活動の姿勢 ② 学習プリント、ワークシートの点検 ③ 活動成果物の出来ばえ ④ 小テスト、定期考査
	第4章 地球的課題と国際協力	1 地球環境問題 2 資源・エネルギー問題	○	○	○	a: 地球的課題について、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 地球的課題を捉えて、幸福、正義、公正の観点から解決策を構想・考察し表現している。 c: 地球的課題に対する関心を高め、意欲的に追求し、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方を考察しようとしている。	① 授業態度、活動の姿勢 ② 学習プリント、ワークシートの点検 ③ 活動成果物の出来ばえ ④ 小テスト、定期考査
後期末	第4章 地球的課題と国際協力	3 人口・食糧問題 4 居住・都市問題	○	○	○	a: 地球的課題について、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 地球的課題を捉えて、幸福、正義、公正の観点から解決策を構想・考察し表現している。 c: 地球的課題に対する関心を高め、意欲的に追求し、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方を考察しようとしている。	① 授業態度、活動の姿勢 ② 学習プリント、ワークシートの点検 ③ 活動成果物の出来ばえ ④ 小テスト、定期考査
	第5章 生活圏の諸課題	1 日本の自然環境と防災 2 生活圏の諸課題と地域調査	○	○	○	持続可能な社会の形成に対する関心を高め、課題を意欲的に探究し、人間の在り方生き方を考察しようとしている。	① 授業態度、活動の姿勢 ② 学習プリント、ワークシートの点検 ③ 活動成果物の出来ばえ ④ 小テスト、定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	地歴・公民	学年	1	教科書	明解 歴史総合 (帝国書院)
科目	歴史総合	クラス	A・B	副教材	
		単位数	2	担当者	吉田 大樹

学習目標	<p>①近現代の歴史の変化に関わる諸事情について、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。</p> <p>②歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力を養い、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。</p> <p>③よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めることができる。</p>				
学習方法	<p>(1) 単元に関する学習プリントを通して、必要とされる知識を予習・復習する。</p> <p>(2) 単元ごとに設定するテーマ学習のワークシートや活動自体を通して、情報活用能力を習得したり、見方・考え方を磨いたりする。</p> <p>(3) 単元のポイントを説明したり、テーマ学習の取組を発表したりする言語活動を通して、傾聴力や伝達力を高める。</p> <p>(4) 授業での学びを、再現する機会に発揮したり、社会で役立てるために自分事として捉えたりする意識を深める。</p>				
評価の観点	当該科目の評価の趣旨				
学習評価	a 知識・技能	歴史に関する諸資料を用いて、必要な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能が身に付いている。近現代の歴史の変化に関わる諸事象を理解している。			
	b 思考・判断・表現	近現代史の事象の意味や意義、特色を、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりに着目して、多角的・多面的に考察したり、歴史に見られる課題の解決・改善に向けて構想したりする力や、そのことを伝える力が養われている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史に関わる諸事象について、見受けられる課題を主体的に解決しようとする態度や我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする姿勢などが身に付いている。			
定期考査については、上記a, b, c の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	歴史と私たち 歴史の特質と資料 近代化への問い	第1部 歴史の扉 第1章 歴史と私たち 第2章 歴史の特質と資料	○	○	○	a: 現代社会の諸課題に対する関心を高め、意欲的に追求し、生き方と関連させようとしている。 b: 現代社会の諸問題について課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から考え表現している。 c: 現代社会の諸問題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、有用な情報についてまとめ、活用している。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査
		第2部 結びつく世界と日本の開国 第1章 江戸時代の日本と結びつく世界 第2章 欧米諸国における近代化	○	○	○		
前期末	近代化の進展と国家形成の過程 第一次世界大戦と日本・世界の関係	第3章 近代化の進展と国民国家形成 第4章 アジア諸国の動揺と日本の開国 第5章 近代化が進む日本と東アジア	○	○	○	a: 近代史における大衆化の事象について理解し、その知識を身に付けている。また、その有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 近代史の大衆化の諸事象から、現在とつながる課題を見つけ出し、幸福、正義、公正の観点から解決策・改善を構想し表現している。 c: 近代史における大衆化について関心を高め、意欲的に追求し、相互の関連や現在とのつながりを考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査

後期中間	世界に広まった大衆化の広がり 大衆と戦争の関わり 第二次世界大戦後の国際秩序の変化	第3部 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第1章 第一次世界大戦と日本の対応 第2章 国際協調と大衆社会の広がり 第3章 日本の行方と第二次世界大戦 第4章 再出発する世界と日本	○	○	○	a: 近代史における大衆化の事象について理解し、その知識を身に付けている。また、その有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 近代史の大衆化の諸事象から、現在とつながる課題を見つけ出し、幸福、正義、公正の観点から解決策・改善を構想し表現している。 c: 近代史における大衆化について関心を高め、意欲的に追求し、相互の関連や現在とのつながりを考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査
後期末	冷戦の展開と日本・世界の選択 日本・世界の経済成長の流れ 冷戦終結後のグローバル化と世界の変化	第4部 グローバル化と私たち 第1章 冷戦で揺れる世界と日本 第2章 多極化する世界 第3章 グローバル化のなかの世界と日本	○	○	○	a: 近代史におけるグローバル化について、基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。また、その有用な情報についてまとめ、活用している。 b: 近代史におけるグローバル化について課題を見つけ、幸福、正義、公正の観点から解決策・改善を構想し表現している。 c: 近代史におけるグローバル化について関心を高め、意欲的に追求し、国際社会における日本の果たすべき役割及び日本人の生き方を考察しようとしている。	①授業態度、活動の姿勢 ②学習プリント、ワークシートの点検 ③活動成果物の出来ばえ ④小テスト、定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	1	教科書	改訂版 最新 数学 I (数研出版)
科目	数学 I	クラス	A・B(習熟度別授業による2分割)	副教材	改訂版3ROUND数学 I +A(数研出版)
		単位数	3	担当者	佐々木 卓磨・五日市 純哉・菊池 元夢

学習目標	① 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象の数学化や解釈・表現・処理などの数学的な技能を身に付けることができる。 ② 適切な手法や表現を選択し、解決の過程や結果を考察し判断することができる。 ③ 数学の活用、数学的論拠に基づいた判断、問題解決における考察の評価・改善ができる創造性の基礎を身に付けることができる。				
学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考えるグループワークやペアワークを行う。 ② 課題ノートを作成し、授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 授業終了時や授業開始時に、授業内容の復習及び課題内容の理解度を測るための評価テストを行う。				
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨			
	a 知識及び技能	基本的な概念や原理・法則などを確実に理解し、問題の発見・解決の過程を自立的に遂行する技能を身に付けている。			
	b 思考力・判断力・表現力	数学を活用して事象を論理的に考察し、他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察しており、それを数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現している。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し、数学の学習への関心・意欲をもって数学的活動を行い、身に付けた知識及び技能や思考力を活用することができる。			
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 数と式	多項式とその演算	○		○	[a] ・多項式の整理や展開・因数分解ができる。 ・実数を理解し無理数の四則演算ができる。 ・不等式の性質を理解し解くことができる。 [b] ・公式や置換法を活用することができる。 ・分数の仕組みや平方根・不等式の性質を用いて考察や計算することができる。 [c] ・数の体系を拡張する過程や数の四則演算に関心を持ち、展開や因数分解・不等式を具体的な事象の考察に活用しようとする。	① 授業態度 (1) 発言・話し合い (2) 取組 ② 課題提出 (1) 提出状況 (2) 取組 ③ 定期考査
		展開・因数分解	○		○		
		実数		○	○		
		根号を含む式の計算	○		○		
		不等式とその性質		○	○		
		1次不等式・連立不等式 不等式の利用	○		○		
前期末	第3章 2次関数	1次関数とグラフ	○		○	[a] ・2次関数の式やグラフの特徴について理解し、最大値・最小値、方程式・不等式の解を求めることができる。 [b] ・身近な問題を関数の式に表すことができる。 ・2次関数のグラフとx軸の共有点から、2次方程式・2次不等式の解を考察することができる。 [c] ・2次関数とそのグラフについて関心を持ち、事象の考察に活用しようとしている。	① 授業態度 (1) 発言・話し合い (2) 取組 ② 課題提出 (1) 提出状況 (2) 取組 ③ 定期考査
		2次関数のグラフ		○	○		
		2次関数の最大値・最小値		○	○		
		2次関数の決定		○	○		
		2次方程式	○		○		
		グラフとx軸の共有点		○	○		
		2次不等式と利用		○	○		
後期中間	第4章 図形と計量	鋭角の三角比	○		○	[a] ・三角比の基本的な性質について理解し、三角比の相互関係や様々な定理・公式を活用して図形の計量をすることができる。 [b] ・直接測ることのできない距離を三角比の問題として捉え、定理・公式を用いて考察することができる。 [c] ・直接観測できない距離など日常の事象や社会の事象に三角比の知識を活用しようとしている。	① 授業態度 (1) 発言・話し合い (2) 取組 ② 課題提出 (1) 提出状況 (2) 取組 ③ 定期考査
		三角比の利用と相互関係		○	○		
		三角比の拡張	○		○		
		三角比が与えられたときの角	○		○		
		正弦定理		○	○		
		余弦定理		○	○		
		三角形の面積		○	○		
		図形の計量		○	○		
後期末	第2章 集合と命題	集合と部分集合	○		○	[a] ・集合の基本的概念を理解し、命題の真偽の判別や条件の判定、証明ができる。 [b] ・集合の包含関係と命題の真偽を結びつけて考えることができる。 ・対偶や背理法を用いた間接証明を活用できる。 [c] ・様々な法則や関係に着目し、命題について考察しようとしている。	① 授業態度 (1) 発言・話し合い (2) 取組 ② 課題提出 (1) 提出状況 (2) 取組 ③ 定期考査
		共通部分、和集合、補集合	○		○		
		命題と集合		○	○		
		命題と証明		○	○		
	第5章 データの分析	データの整理と代表値	○		○		
		データの散らばり	○		○		
		データの相関		○	○		
		相関係数		○	○		
		仮説検定の考え方		○	○		
				○	○		

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	数学	学年	1	教科書	改訂版 最新 数学A (数研出版)
科目	数学A	クラス	A・B(習熟度別授業による2分割)	副教材	改訂版3ROUND数学I+A(数研出版)
		単位数	2	担当者	佐々木 卓磨・五日市 純哉・菊池 元夢

学習目標	① 基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し、事象の数学化や解釈・表現・処理などの数学的な技能を身に付けることができる。 ② 適切な手法や表現を選択し、解決の過程や結果を考察し判断することができる。 ③ 数学の活用、数学的論拠に基づいた判断、問題解決における考察の評価・改善ができる創造性の基礎を身に付けることができる。	
学習方法	① 授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考えるグループワークやペアワークを行う。 ② 課題ノートを作成し、授業内容についての課題に取り組む。また、週末や長期休業等の課題に取り組む。 ③ 授業終了時や授業開始時に、授業内容の復習及び課題内容の理解度を測るための評価テストを行う。	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	基本的な概念や原理・法則などを確実に理解し、問題の発見・解決の過程を自立的に遂行する技能を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	数学を活用して事象を論理的に考察し、他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察しており、それを数学的な表現を用いて簡潔・明瞭・的確に表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	数学の良さを認識し、数学の学習への関心・意欲をもって数学的活動を行い、身に付けた知識及び技能や思考力などを活用することができる。
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1章 場合の数と確率	集合	○		○	【a】 ・集合や順列、組合せの考え方を理解し適切に用いることで、事象の確率を適切に求められるようになる。 ・確率の意味や基本的性質を理解し、様々な条件をもつ事象の確率を求めることができる。 【b】 ・ベン図や樹形図などを用いて場合の数や確率を考察できる。 ・事象の構造や確率の性質に着目し、多方面に考察することができる。 【c】 ・日常的な事象の起こりやすさや期待値を自立的に活用しようとしている。	①授業態度 (1)発言・話し合い (2)取組 ②課題提出 (1)提出状況 (2)取組 ③定期考査
		集合の要素の個数	○		○		
		樹形図、和・積の法則		○	○		
		順列	○		○		
		円順列と重複順列	○		○		
		組合せ	○		○		
前期末	第1章 場合の数と確率	確率の基本的性質	○		○	①授業態度 (1)発言・話し合い (2)取組 ②課題提出 (1)提出状況 (2)取組 ③定期考査	
		和事象・余事象の確率	○		○		
		独立な試行の確率		○	○		
		反復試行の確率		○	○		
		条件付き確率		○	○		
		期待値	○		○		

後期中間	第2章 図形の性質	角の二等分線と比	○		○	【a】 ・三角形や円・空間図形に関する基本的な性質について理解することができる。 【b】 ・図形の構成要素間の関係や既習内容に着目し、図形の新たな性質を見出し、論理的に考察・証明することができる。 【c】 ・日常における図形を、作図や性質の理解を通して関心を持っている。 ・様々な性質から定理・公式を自立的に導こうとしている。	①授業態度 (1)発言・話し合い (2)取組 ②課題提出 (1)提出状況 (2)取組 ③定期考査
		外心、内心、重心		○	○		
		チェバ・メネラウスの定理		○	○		
		円周角の定理	○		○		
後期末	第2章 図形の性質	円に内接する四角形	○		○	①授業態度 (1)発言・話し合い (2)取組 ②課題提出 (1)提出状況 (2)取組 ③定期考査	
		円と接線	○		○		
		接線と弦の作る角	○		○		
		方べきの定理	○		○		
		2つの円		○	○		
		作図		○	○		
空間の直線と平面	○		○				
		多面体	○		○		

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力、判断力、表現力等	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	理科	学年	1	教科書	改訂版 新編 物理基礎 (数研出版)
科目	物理基礎	クラス	A・B	副教材	物理基礎 学習ノート(数研出版)
		単位数	2	担当者	佐々木 倫郎

学習目標	物理基礎の学習を通して、次のことができるようになる。 ○物体の運動と様々なエネルギーに関心をもつ。□ ○基本的概念や原理・法則を理解し、科学的な見方・考え方を身に付ける。□ ○目的意識を持って観察、実験などを行い、探求する能力と態度を身に付ける。	
学習方法	○授業において自ら考え、また、周りの生徒と共同で考える活動を行う。□ ○ノートを作成し、授業内容についての課題や演習問題に取り組む。□ ○器械、器具などの基本操作を学ぶ。□ ○基礎・基本を習得する。□	
学習評価	評価の観点	
	a 知識及び技能	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。
	b 思考力・判断力・表現力	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。
	c 主体的に学習に取り組む態度	自然の事物・現象に関心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。
定期考査については、上記 a, b の観点それぞれについて、学習内容に応じて適切に配分しています。		

これについて学習内容に応じて適切に配分しています。

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方	速度 加速度 落体の運動	○	○	○	a 等速直線運動の式およびx-t図、v-t図を理解できる。 b 速度の意味表し方、またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し、物体の運動のようすを考えることができる。 c 物体の運動について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2章 運動の法則	力とそれはたらき 力のつりあい 運動の法則 摩擦を受ける運動	○	○	○	a 物体にはたらく力について、理解できる。 b 運動方程式を用いて、物体の運動を説明できる。 c 物体にはたらく力と現象について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
前期末	第3章 仕事と 力学的エネルギー	仕事 運動エネルギー 位置エネルギー 力学的エネルギー保存則	○	○	○	a 仕事の原理を仕事を計算して求め、比較し理解できる。 b 力学的エネルギー保存則を用いて、物体の運動を定量的に考えることができる。 c 力学的エネルギー保存則について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	熱と物質の状態 熱と仕事	○	○	○	a 温度、熱運動、熱量、比熱、熱容量などが正しく理解できる。 b 熱を伴う日常的な事象を、学習内容に照らし合わせて説明できる。 c ものの温まりやすさなど、熱にかかわる現象について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査

後期中間	第3編 波 第1章 波の性質	波と媒質の運動 波の伝わり方	○	○	○	a 波の発生原理や基本事項を理解できる。 b 波の伝わるようすを、グラフで表現することができる。 c 波による現象について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2章 音	音の性質 発音体の振動と共振・共鳴	○	○	○	a 日常生活での体験を通して、音の波としての性質を理解できる。 b 音の特徴づける3つの要素について説明できる。 c 弦や気柱の振動について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
後期末	第4編 電気 第1章 物質と電気	電気の性質 電流と電気抵抗 電気とエネルギー	○	○	○	a オームの法則、抵抗の接続、抵抗率の基礎について理解できる。 b 電気を伴う日常的な事象を、オームの法則やジュールの法則などを用いて説明できる。 c 電気による現象について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第2章 磁場と交流	電流と磁場 交流と電磁波	○	○	○	a 電流が作る磁場と電流が磁場から受ける力、交流と電磁波について理解できる。 b 電流と磁場の関係について説明できる。 c 電流と磁場による現象について関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査
	第5編 物理学と社会 第1章 エネルギーの利用	エネルギーの移り変わり エネルギー資源と発電 物理学が拓く世界	○	○	○	a エネルギーにはどのような種類があるか、また、身近なさまざまな事象でどのようなエネルギー変換がなされているかを理解できる。 b ある事象に対して、どのようなエネルギー変換が行われているかを考察し、説明することができる。 c 再生可能エネルギーについて関心や探究心を持ち、主体的に取り組んでいる。	①授業態度 ②授業への取り組み ③課題への取り組み ④課題提出状況 ⑤確認テスト ⑥定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識及び技能	35	25	10
	思考力・判断力・表現力	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	1	教科書	現代高等保健体育 改訂版(大修館)
科目	体育	クラス	A・B	副教材	
		単位数	3	担当者	田中館 洸・狐崎 亜実

学習目標	○各運動における基本的な記述やルール、特性を理解する。 ○運動の課題を発見し、解決に向けて工夫する力を養う。 ○積極的に運動に取り組み、継続する態度を身に着ける。				
学習方法	○運動の合理的、計画的な実践を通して、知識、技能を高める。 ○ペアやチームでの活動を通して、仲間と協力や交流をする。 ○競技のルール、安全面についての理解を深める。				
学習評価	評価の観点		当該科目の評価の趣旨		
	a	知識・技能	運動の合理的、計画的な実践を通し、運動の楽しさや喜びを味わい、生涯にわたり運動を継続し、運動の多様性や体力の必要性について理解し、技能を身につける。		
	b	思考・判断・表現	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見や解決し、自己や仲間の考えたことを他者に伝える。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	運動における競争や協働の経験を通して、公平に取り組む、互いに協力、自己の背金を果たす、参画する、1人1人の違いを大切にし、意欲を育むとともに、健康・安全を確保する。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	A 体づくり運動	体ほぐしの運動 実生活に生かす運動の計画 集団行動	○	○	○	a: 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則を理解し仲間と自主的に関わり合う。 b: 自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c: 体づくり運動に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合う。	観察 記録
	C 陸上競技	短距離 跳躍 投てき	○	○	○	a: 技術の名称や行い方、体力の高め方を理解し、各種目の技術を身につける。 b: 自己や仲間の課題を発見し、取り組み方を工夫し、自己の考えたことを他者に伝える。 c: 陸上競技に自主的に取り組み、ルールやマナーを大切にす。	観察 スキルテスト 筆記テスト
前期末	E 球技 ア:ゴール型	バスケットボール	○	○	○	a: 安定したボール操作と、動きによってゴール前への侵入などから攻防をする。 b: 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c: 自主的に取り組み、フェアなプレーを大切に、互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 筆記テスト
	E 球技 イ:ネット型	バレーボール	○	○	○	a: ボール操作や用具の操作と、連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。 b: 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c: 自主的に取り組み、フェアなプレーを大切に、互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 筆記テスト
	H 体育理論 1 スポーツの始まりと変遷 2 文化としてのスポーツ		○	○	○	a: スポーツの始まりとスポーツの発展について理解している。 b: 内容について課題を発見し、解決に向け思考し判断するとともに、他者に伝えられる。 c: 学習に主体的に取り組んでいる。	観察 筆記テスト ノート
後期中間	G ダンス ウ:現代的なリズム のダンス	現代的なリズムのダンス グループ学習	○	○	○	a: リズムの特徴を捉え、変化やまとまりを付け、リズムに乗り全身で踊っている。 b: 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫し考えたことを他者に伝えられる。 c: 自主的に取り組み、互いに助け合い教え合い、発表等の話合いに貢献しようとする。	観察 学習カード 発表
	E 球技 ア:ゴール型	サッカー	○	○	○	a: 安定したボール操作と、動きによってゴール前への侵入などから攻防をする。 b: 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c: 自主的に取り組み、フェアなプレーを大切に、互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 筆記テスト
	E 球技 ウ:ベース型	ソフトボール	○	○	○	a: 状況に応じたバット操作と走塁、安定したボール操作と状況に応じた守備などで攻防をする。 b: 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c: 自主的に取り組み、フェアなプレーを大切に、互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 筆記テスト
	H 体育理論 1 スポーツの発祥と発展		○	○	○	a: オリンピックとパラリンピックの意義について理解している。 b: スポーツに関わる業種について思考し判断するとともに、他者に伝えられる。 c: 学習に主体的に取り組もうとしている。	観察 筆記テスト ノート
後期末	E 球技 イ:ネット型	卓球 バドミントン	○	○	○	a: ボール操作や用具の操作と、連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をする。 b: 運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えられる。 c: 自主的に取り組み、フェアなプレーを大切に、互いに助け合おうとしている。	観察 スキルテスト 筆記テスト
	H 体育理論 1 スポーツの発祥と発展		○	○	○	a: スポーツにおけるドーピングについて具体的に説明ができ理解している。 b: 内容について課題を発見し、解決に向け思考し判断するとともに、他者に伝えられる。 c: 学習に主体的に取り組もうとしている。	観察 筆記テスト ノート

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	保健体育	学年	1	教科書	現代高等保健体育 改訂版(大修館書店)
科目	保健	クラス	A・B	副教材	現代高等保健体育ノート(大修館書店)
		単位数	1	担当者	田中 澁

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> ○健康に関する基礎的な内容を理解し、必要な技能を身に着ける ○健康に関する課題を見つけ、考え、適切に表現できる。 ○健康について自主的に関わり、学び続けようとする姿勢を育てる。 	
学習方法	<ul style="list-style-type: none"> ○授業において自ら考え、また、周りの生徒と協働して考える活動を行う。 ○ノートや副教材等を活用し、授業内容についての理解を深め、課題や演習問題に取り組む。 	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識・技能	現代社会、安全な社会生活について理解している。
	b 思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、計画的な解決に向けて思考し判断し、目的状況に応じて他者に伝えることができる。
	c 主体的に学習に取り組む態度	現代社会と健康、社会生活と健康について、生涯を通じて健康の保持増進やそれを支える環境を考え、授業で得た知識を元に健康的な生活を送るための選択や活用ができる。
定期考査については、上記a、bの観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	1. 現代社会と健康	1 健康の考え方と成り立ち 2 私たちの健康のすがた 3 生活習慣病の予防と回復 4 がんの原因と予防 5 がんの治療と回復 6 運動と健康 7 食事と健康 8 休養・睡眠と健康	○	○	○	健康課題や考え方は変化してきていること、健康は主体と環境の相互作用の下に成り立っていることを理解している。 a 感染症の発生や流行には時代・地域によって違いがみられることを理解している。 生活習慣病などの予防と回復には調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見及び社会的対策が必要であることを理解している。 b 疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、説明できる。 c 授業で示された学習内容を元に将来のことを考え、健康的な生活を送るために、実践することができる(ロールプレイング)。	授業態度 課題提出
前期末		9 喫煙と健康 10 飲酒と健康 11 薬物乱用と健康 12 精神疾患の特徴 13 精神疾患の予防 14 精神疾患からの回復	○	○	○	喫煙・飲酒は生活習慣病などの要因にあること、薬物乱用は心身の健康や社会に深刻な影響を与えることを理解している。 a 精神疾患の予防と回復には調和のとれた生活を実践し、心身の不調に気づくことが重要であることを理解している。 b 疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、説明できる。 c 精神疾患の特徴を理解し、各々のストレスを感じたときの様々な対処方法を見つけることができる。	授業態度 課題提出 定期考査

後期中間	1. 現代社会と健康	15 現代の感染症 16 感染症の予防 17 性感染症・エイズの予防 18 健康に関する意志決定・行動選択 19 健康に関する環境づくり	○	○	○	a さまざまな感染症とその広がり方、再興感染症と新興感染症、社会と個人で取り組む感染症予防対策について、基礎的な事項を理解している。 b 疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、説明できる。 c 授業で示された学習内容を元に健康的な生活のための意思決定・行動選択ができる。	授業態度 課題提出
後期末	2. 安全な社会生活	1 交通事故の現状と発生要因 2 安全な社会の形式 3 交通における安全 4 応急手当の意義とその基本 5 日常的な応急手当 6 心肺蘇生法	○	○	○	a 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取り組みが必要であることを理解している。 応急手当は生涯や疾病の悪化を軽減でき、速やかに行う必要があることを理解し、正しい手順や方法を実践できる。 b 自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避したり、生涯の悪化を防止したりする方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを他者に説明できる。 c 胸骨圧迫、人工呼吸、AEDによる除細動の原理と意義、心肺蘇生法の各手順のポイントについて、基礎的な事項を理解し、救命講習会で実践することができる。	授業態度 課題提出 定期考査

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			
前期末	知識・技能	30	20	10
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			
後期中間	知識・技能	40	30	10
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			
後期末	知識・技能	30	20	10
	思考・判断・表現			
	主体的に学習に取り組む態度			

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	芸術	学年	1	教科書	MOUSA1(教育芸術社)
科目	音楽 I	クラス	音楽選択者	副教材	音楽の鑑賞資料と基礎学習(教育芸術社)
		単位数	2	担当者	細田 富士子

学習目標	<p>○生涯にわたって音楽を愛好するために必要な、基本的音楽能力を身に付けることができる。</p> <p>○創造的な音楽表現と鑑賞の能力を身に付けることができる。</p> <p>○幅広い音楽文化に対して興味関心をもち、それらの良さを味わいながら理解することができる。</p> <p>○グループ活動やアンサンブル活動を通して、曲の解釈や好みの違いに気づき、互いの意見を尊重しながら理解を深めることができる。</p>
学習方法	<p>○目標を提示し、授業を展開する。</p> <p>○基本的な知識・技能の学習を繰り返し行い、活用できる能力を身に付ける。</p> <p>○創造的な音楽表現と鑑賞の能力を身に付けるために、主体的に考え活動する。</p> <p>○我が国や郷土の伝統音楽を含む魅力的な教材から幅広い音楽文化の良さを味わうこと。</p> <p>○単元毎に実技試験や筆記試験に臨み、知識・技能の定着を実感する。</p>

学習評価	当該科目の評価の趣旨				
	a	知識・技能	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽、創作などで表している。		
	b	思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。		
	c	主体的に学習に取り組む態度	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり、主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	歌唱の基本 日本の歌 著作権を守ろう	音楽の要素を知覚するとともに、発声の基本を身に付け、歌詞内容に沿った表現をする。	○	○	○	a: 曲想と音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 b: 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声を身に付ける。 c: 音色、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	ポディパーカッション 創作(作曲) 楽典	各楽器の特徴と奏法を知り、パートの重なりを感じながら演奏する。	○	○	○	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 b: 創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、器楽で表している。 c: リズム、強弱を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	
前期末	合唱	各声部の役割と声の重なりを感じ取り、楽曲を構造的に捉えて表現する。	○	○	○	a: 音色、旋律、構成を知覚し、音楽の構造や歌詞との関わりについて理解している。 b: 創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、他者との調和を意識して演奏する技能を身に付け、歌唱で表している。 c: 音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	器楽アンサンブル	各楽器の特徴と奏法を知り、パートの重なりを感じながら演奏する。	○	○	○	a: アンサンブル活動に意欲的・協力的に取り組んでいる。 b: 楽曲全体をとりえ、自分のパートの音色・奏法・表現方法を工夫している。 c: 各楽器の奏法を習得し、演奏に必要な技能を習得しようとしている。	

後期中間	和楽器 日本音楽	楽器の特徴と奏法を知り、パートの重なりを感じながら演奏する。	○	○	○	a: アンサンブル活動に意欲的・協力的に取り組んでいる。 b: 楽曲全体をとりえ、自分のパートの音色・奏法・表現方法を工夫している。 c: 各楽器の奏法を習得し、演奏に必要な技能を習得しようとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	世界の諸民族の音楽	世界の諸民族の音楽に触れ、その特徴を味わう。	○	○	○	a: ささまざまな民族の音楽に関心を持って、主体的に鑑賞や演奏に取り組んでいる。 b: ささまざまな民族の音楽の特徴を捉えて鑑賞する。 c: 文化的背景を捉えながら鑑賞しようとしている。	
	イタリア語の歌曲	各イタリア語の歌曲の特徴と声の魅力を感じ取り歌う。	○	○	○	a: イタリア語の歌曲の歌唱や鑑賞活動に意欲的に取り組んでいる。 b: 楽曲の歌詞内容を理解し、表現を工夫している。 c: 強弱・音色・速度を変化させて楽曲の雰囲気合うように表現しようとしている。	
	ドイツリート	ドイツ歌曲の特徴を味わいながら歌い、表現の多様さを感じ取る。	○	○	○	a: ドイツリートの歌唱や鑑賞活動に意欲的に取り組んでいる。 b: ドイツリートおよび楽曲の形式を理解し、表現を工夫している。 c: 音色・強弱・速度・ドイツ語の取り扱いに配慮し、創造的に歌唱しようとしている。	
後期末	舞台芸術① (ミュージカル) 創作(作詞)	ミュージカルの特徴を捉え、味わう。	○	○	○	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 b: 音色、形式を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴いている。 c: 音色、形式に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	活動の様子 提出物 実技試験 小テスト
	舞台芸術② (オペラ)	オペラ固有の特徴を捉え、味わう。	○	○	○	a: 曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。 b: 音色、リズム、旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴いている。 c: 音色、リズム、旋律に関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考查	考查以外
前期中間	知識・技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	0	35
	思考・判断・表現	35	0	35
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	芸術	学年	1	教科書	書Ⅰ (教育図書)
科目	書道Ⅰ	クラス	書道選択者	副教材	書学習の資料 (岩手県高教研書道部会)
		単位数	2	担当者	武田由起子

学習目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することができる。 (1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付ける。 (2) 書のおよび美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書のおよび美しさを味わい捉えたりすることができる。 (3) 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養うことができる。	
学習方法	○授業において書と向き合い、作品制作に取り組む。 ○単元毎に実技試験(作品提出)に臨み、知識・技術の定着を実感する。 ※生徒の実情に合わせて全体・個別指導を組み合わせ、適切な課題を提示する。	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識・技能	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について幅広く理解している。 ・書写能力を向上させるとともに、書の伝統に基づき、作品を効果的に表現するための基礎的な技能を身に付け、表している。
	b 思考・判断・表現	・書のおよび美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書のおよび美しさを味わい捉えたりしている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	・主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	書写で学んできたこと	書写で学んできたこと コラム:用具・用材の製造方法 用具・用材 姿勢・執筆法	○	○	○	a: 表現 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わりについて理解している。 ・目的や用途に即した効果的な表現、楷書と仮名や行書と仮名の調和した線質による表現を身に付けている。 b: 中学校書写で学んだ漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した効果的な表現形式、意図に基づいた表現について構想し工夫している。 c: 自身の表現の意図に基づく表現、漢字仮名交じりの表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。	授業態度 課題提出
	漢字の書	漢字の書の成立と変遷 古典に基づく学習	○	○	○	a: 鑑賞 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、書の伝統的な鑑賞の方法や形態について理解している。 b: 鑑賞 ・漢字の書の古典の価値とその根拠について考え、書のおよび美しさを味わって捉えている。 c: 鑑賞 ・書のおよび美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。	
	楷書	楷書の特徴 表現を比べよう 「孔子廟堂碑」	○	○	○	a: 表現 ・楷書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 b: 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、楷書の古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。 c: 表現 ・楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。	
前期末	楷書	「九成宮醜虞銘」 「雁塔聖教序」 「顔氏家廟碑」 「牛欄造像記」	○	○	○	a: 表現 ・楷書の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 鑑賞 b: 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、楷書の古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。 c: 表現 ・楷書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。 鑑賞 ・楷書の古典の価値とその根拠について考え、書のおよび美しさを味わって捉えている。	授業態度 課題提出

後期中間	行書	行書の特徴 「集王聖教序」 「争座位文稿」 「蘭亭序」 「風信帖」	○	○	○	a: 表現 ・行書、草書の古典の書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 鑑賞 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わり、日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 b: 行書、草書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、楷書の古典の線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。 c: 表現 ・行書、草書の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し、工夫している。 鑑賞 ・楷書、行書、草書、隷書、篆書の古典の価値とその根拠について考え、書のおよび美しさを味わって捉えている。	授業態度 課題提出
	草書	「真草千字文」					
後期末	仮名の書	「蓬萊切」 「高野切古今和歌集(第三種)」	○	○	○	a: 表現 ・用具・用材の特徴と表現効果との関わり、名筆や現代の書の表現と用筆・運筆との関わりについて理解している。 鑑賞 ・線質、字形、構成等の要素と表現効果や風趣との関わりについて理解している。 ・目的や用途に即した効果的な表現や、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。 b: 表現 ・漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫している。 鑑賞 ・創造された作品の価値とその根拠について考え、書のおよび美しさを味わって捉えている。	授業態度 課題提出
	漢字仮名交じりの書	創作 ・言葉と書を調和させよう 鑑賞 ・書のおよび美しさを味わおう					
	篆刻と刻字	篆刻と落款 鑑賞 ・篆刻のおよび美しさを味わおう	○	○	○	a: 鑑賞 ・日本及び中国等の文字と書の伝統と文化について理解している。 c: 表現 ・自身の表現の意図に基づく表現、篆刻・刻字の表現の特質に基づく表現をする幅広い表現の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 鑑賞 ・篆刻・刻字のおよび美しさを甘受し、作品や書の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習に取り組もうとしている。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
前期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期中間	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40
後期末	知識・技能	30	0	30
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	40	0	40

令和8年度 年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	英語	学年	1	教科書	Power On English Communication I Revised(東京書籍)
科目	英語コミュニケーション I	クラス	A・B	副教材	Power On English Communication I Revised WORKBOOK(東京書籍)・クラウン チャンクで英単語Basic(三啓堂)
		単位数	3	担当者	箱石 典子・近藤 孝・北村 ちひろ

学習目標	コミュニケーション英語 I の授業を通して次のことができるようにする。 ①必要な情報を聞いたり、読んだりして、相手の意図を把握したり、概要、要点を理解することができる。 ②基本的な語句や文を用いて、情報や考え、意見を表現したり、伝えたりすることができる。 ③グループワーク・ペアワーク等を通して相手のことを思いやった英語発信をすることができる。 ④日々の単語学習やペア・グループでのやりとり、発表などの活動に積極的に取り組むことができる。				
学習方法	①毎時のゴールに向かい見直しをもって学習に取り組む。 ②ゴール達成のために必要な知識・技能や理解・表現力などを養うために4技能を統合して学習する。 ③積極的に英語を用いてペア・グループでの言語活動に取り組む。 ④日々の単語学習やワークブックを用いての授業内容の復習を徹底する。				
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の観点			
	a 知識・技能	外国語の語彙や表現を理解し、活用できる技能を身に付けている。			
	b 思考・判断・表現	外国語で情報や考え、相手の意図を理解したり、適切に表現したり伝え合ったりしている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	外国語での言語活動を積極的にに行い、コミュニケーションを図ろうとしている。			
	定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。				

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	L.1 Japan's New Tourism	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 動詞の現在形・過去形、進行形、助動詞+動詞の原形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 日本の観光について、情報や意図、概要を理解したり、自分の住んでいる地域の魅力について、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 日本の観光について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.2 Light from Creatures	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: 受け身、現在完了形、現在完了進行形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 光る生き物について、情報や意図、概要を理解したり、ポスター原稿を作成したり話したりして伝えている。 c: 光る生き物について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
前期末	L.3 One Small Goal at a Time	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: 動名詞、不定詞、S+V+O[that節]を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: スポーツ選手について、情報や意図、概要を理解したり、自分の好きなスポーツ選手について、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: スポーツ選手について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.4 Miniature Life	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・ディベート	○	○	○	a: 後置修飾の現在分詞、後置修飾の過去分詞、比較級・最上級を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: ミニチュア写真家、見立て作家について、情報や意図、概要を理解したり、見立てやミニチュア写真の作品について自分の意見を話したり話したりして伝えている。 c: 見立てやミニチュア写真について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.5 Banana Paper	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: 関係代名詞(主格)、関係代名詞(目的格)、S+seem+to不定詞を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: バナナペーパーの販売促進に関する発表について、情報や意図、概要を理解したり、販売促進の案について、自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: バナナペーパーの販売促進について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト

後期中間	L.6 Patterns in Human Behavior	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・ディスカッション	○	○	○	a: It+be動詞+形容詞+that節、S+V[be動詞以外+O]、S+V+O+O[形容詞]を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 人間の行動に関する心理学実験の手順や結果について、情報や意図、概要を理解したり、関連データについて、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 人間の行動に関する心理学実験の手順や結果について、対話やディスカッションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.7 No Plastic or No Future	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・スピーチ	○	○	○	a: 関係副詞where、関係副詞when、関係代名詞whatを用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: プラスチックごみによる海洋汚染について、情報や意図、概要を理解したり、社会問題と解決策について、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: プラスチックごみによる海洋汚染について、対話やスピーチを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
後期末	L.8 Oh My Cod!	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: 現在分詞の分詞構文、関係代名詞の非制限用法、過去完了形を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 食糧資源や伝統料理について、情報や意図、概要を理解したり、その背景などを話したり書いたりして伝えている。 c: 食糧資源や伝統料理について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.9 Is E-sports a Real Sport?	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: S+V[知覚]+O+O[現在分詞、原形不定詞]、S+V[使役]+O+O[原形不定詞]、S+V+O+O[if などの節]を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: eスポーツの利点について、情報や意図、概要を理解したり、クラブ設立の提案について、自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: eスポーツの利点について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト
	L.10 Never Too Late to Learn and Relearn	単語・文法 リスニング・リーディング ライティング・プレゼンテーション	○	○	○	a: wish+仮定法過去の節、仮定法過去のas if節、仮定法過去のif節を用いた文の形・意味・用法を理解している。 b: 服飾デザイナーやその作品について、情報や意図、概要を理解したり、服飾文化について、情報や自分の考えなどを話したり書いたりして伝えている。 c: 服飾デザイナーやその作品について、対話やプレゼンテーションを通して積極的にコミュニケーションを取ろうとしている。	①授業内活動 ②小テスト ③定期考査 ④パフォーマンステスト

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	家庭	学年	1	教科書	家庭基礎 自立・共生・創造
科目	家庭基礎	クラス	A・B	副教材	東京書籍 学習ノート
		単位数	2	担当者	金石知佳

学習目標	<p>生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。</p> <p>(1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。</p> <p>(3)様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。</p>				
学習方法	<p>1 最終的な目標を意図し、自分の現在や将来の家庭生活に関わる基本的な知識と技術を習得する。</p> <p>2 グループ学習や実習では、実践的な学習を通して自分以外の意見を受け入れ、協調性を身に付けながら、積極的に理解を深める。</p> <p>3 資料や教材を活用し、知識だけでなく、生活と結びつけて考えをまとめ、伝わりやすい発表とどのようなものか試行錯誤し表現する。</p>				
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨			
	a 知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。			
	b 思考・判断・表現	生活を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。			
	c 主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。			
定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。					

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	家庭科の学び方 ホームプロジェクトと学校 家庭クラブ活動	オリエンテーション 生活に活かそう(ホームプロ ジェクトと学校家庭クラブ活動 について)				a 自分自身について考えるワークシートや将来についてのレポートなどを通して、自分や他者の一生についての考えをまとめることができる。	授業プリント 実習の様子、記録 授業観察 振り返りシート ワークノート 考査
	第1章 生涯を見通す	人生を展望する 目標を持って生きる	○	○	○	b 人生の各ライフステージの特徴と課題について知り、年少高齢社会、男女共同参画社会などの社会状況を考えながら、自分の生活や将来について考えを深め、発表などを通して考えを表現することができる。	
	第2章 人生をつくる	人生をつくる 家族・家庭を見つめる これからの家庭生活と社会	○	○	○	c 現在の自分ごと、将来の生活設計を考えることについて、意欲を持って取り組もうとしている。	
	第3章 子どもと共に育つ	命を育む 子どもの育つ力を知る これからの保育環境	○	○	○	a 現代の家族の特徴や機能、婚姻・夫婦・親子に関する法律の基本的な趣旨を理解している。青年期の課題について具体的に考えようとしている。	
前期末	第8章 住生活をつくる	住生活の変遷と住居の機能 安全で快適な住生活の計画 住生活の文化と知恵	○	○	○	b 家族・家庭に関する課題・問題点について、社会的な制度、労働環境や雇用情勢などの背景も考慮しながら原因を推測し、解決へ導くための考えをまとめ、発表することができる。	授業プリント 実習の様子、記録 授業観察 振り返りシート ワークノート 考査
	ホームプロジェクト	課題設定 計画 実践 発表準備 発表	○	○	○	c 労働時間や役割、労働時間と生活時間との関わりについて関心をもち、現在の家族・家庭がかかえる課題を見いだそうとする。	
	第4章 超高齢社会を共に生きる	超高齢・大長寿社会の到来 高齢者の心身の特徴 これからの超高齢社会	○	○	○	a 結婚、家族・家庭の形、家族・家庭の役割について、自分とどうかわっているのか、興味・関心をもとうとしている。	
	第5章 共に生き、共に支える	私たちの生活と福祉 社会保障の考え方 共に生きる	○	○	○	b 生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。	
後期中間	第7章 衣生活をつくる	衣服の役割を考える 機能を入手する 縫製を体験する 縫製製作実習	○	○	○	c 子どもとよりよく生活について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。	授業プリント 実習の様子、記録 授業観察 振り返りシート 実習作品(エプロン) ワークノート
	第6章 食生活を作る	食生活の課題について考える 食事と栄養・食品 食品の選択と安全 生涯の健康を見通した食事計画 調理の基礎 これからの食生活	○	○	○	a 課題意識をもち、必要な情報収集と計画、実践している。	
	第9章 経済生活を営む	情報の収集・比較と意思決定 購入・支払いのルールと方法 消費者の権利と責任 生涯の経済生活を見通す これからの経済生活	○	○	○	b 生活上の課題を思い出し、その解決を目指して科学的に探求し、内容をまとめ、発表することができる。	
	第11章 これからの生活を創造する	今までの学習を踏まえ、生涯の 生活設計に必要な要素や資質に ついて考える	○	○	○	c 意欲的に学習活動に取り組み、計画に沿って実践することができる。	
後期末	第6章 食生活を作る	食の意義や役割、食生活をとりまく環境などについて、現代の食生活の課題が理解できる。	○	○	○	a 服装の素材の種類や特徴について知識を身に付け、用途に応じてどのような衣服が適切か理解できる。	授業プリント 実習の様子、記録 授業観察 振り返りシート ワークノート 考査
	第9章 経済生活を営む	さまざまな情報を収集しながら、自分の消費行動について検証することができる。	○	○	○	b 高年齢社会の課題やその解決に向けて、新聞記事などを収集し、分析する課程において、課題の発見、解決の方向性を導き出すことができる。	
	第11章 これからの生活を創造する	自分のライフスタイルの実現を目指して、生活設計を考えまとめることができる。	○	○	○	c 高年齢社会の現状、高齢者の心身の特徴や生活について積極的に知り、高齢者とかかわろうとしている。	
	第11章 これからの生活を創造する	自分のライフスタイル、生活設計について考えようとしている。	○	○	○	a 社会福祉の意味、現在の社会福祉の状況、社会保障制度のしくみについて理解できる。	

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	50	20	30
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
前期末	知識・技能	50	0	50
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
後期中間	知識・技能	50	0	50
	思考・判断・表現	30	0	30
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20
後期末	知識・技能	50	20	30
	思考・判断・表現	30	15	15
	主体的に学習に取り組む態度	20	0	20

令和8年度年間指導計画

岩手県立岩泉高等学校

教科	情報	学年	1	教科書	最新情報Ⅰ 新訂版(実教出版)
科目	情報Ⅰ	クラス	A・B	副教材	実教出版 最新情報Ⅰ 学習ノート
		単位数	2	担当者	石倉 節子・細田 富士子

学習目標	<p>情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題の発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めることができる。</p> <p>(2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用することができる。</p> <p>(3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に取り組むことができるように思考力・判断力・表現力を身に付ける。</p>	
学習方法	<p>(1) 確かな知識と技能を身に付けるよう、教科書・副教材を活用する。</p> <p>(2) 座学と実習のバランスを考慮し、実習時間を確保しながら技能の習得を図る。</p> <p>(3) 定期考査で知識の定着と技能の習得など、情報に関する思考力・判断力を確認する。</p> <p>(4) 実技テストにより、知識や技能を把握した上で、習得・改善に向けた取り組み方法を自ら考え学習に活かすようにする。</p>	
学習評価	評価の観点	当該科目の評価の趣旨
	a 知識及び技能	情報と情報技術を問題の発見・解決に活用するための知識について理解し、技能を身に付けているとともに、情報化が進化する社会の特質及びそのような社会と人間との関わりについて理解している。
	b 思考力・判断力・表現力等	事象を情報とその結び付きの視点から捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。
	c 主体的に学習に取り組む態度	情報社会との関わりについて考えながら、問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し、自ら評価し改善しようとしている。
定期考査については、上記a, b の観点それぞれについて学習内容に応じて適切に配分しています。		

学期	単元(題材)	学習活動	評価の観点			単元の評価規準	評価方法
			a	b	c		
前期中間	1章 情報社会と問題解決	・情報と情報社会 ・知的財産と個人情報 ・問題解決 ・実習	○			・社会の発展と基盤技術、新しい情報社会、情報の特性、知的財産権について理解できる。 ・他者の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法を理解できる。 ・サイバー犯罪とは何か、どのように防犯すればよいかを判断できる。 ・問題解決の手順、及び問題発見の方法、問題解決の発案と評価の方法について理解できる。	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度 ④実習の取り組み
			○			・人工知能(AI)など新しい情報技術について理解し、どのような社会的課題を解決できるか考えることができる。 ・情報社会で守るべき情報のモラルやマナー、個人情報とプライバシーについて理解し、それらを管理する方法を身に付けることができる。 ・問題の明確化、情報の分析、解決案の検討や決定ができる。	
	○			・情報と情報技術が社会に果たす役割やこれからの情報社会についてインターネットなどで調べることができる。 ・ネットワークなど、情報化が健康に及ぼす影響について考え、自らの情報活用について振り返り、改善することができる。 ・問題解決をするために、著作物を適切に活用し、主体的に創作活動を行うことができる。 ・サイバー犯罪に関する情報を収集し、適切に活用し安全な方法でネットワークを活用することができる。			
	○			・メディアの機能や分類について理解できる。 ・コミュニケーションの形態には違いがあることを理解できる。 ・インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解できる。 ・社名の中で利用されている情報デザインについて理解できる。 ・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解できる。 ・プレゼンテーションの手順とスライド作成、Webページ、メールの仕組みについて理解できる。			
前期末	2章 コミュニケーションと情報デザイン	・メディアとコミュニケーション ・情報デザイン ・情報デザインの実践 ・実習	○			・ネットワークを通じてデータを効率的に転送する工夫について理解できる。 ・伝送する情報に応じて適切に表現メディアや情報メディアを選択して表現することができる。	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度 ④実習の取り組み
			○			・情報の信憑性や信頼性について吟味し、情報の真意を読み解くことができる。 ・情報バリエーションやユニバーサルデザインについて、身近な例を挙げるができる。	
	○			・効率的なコミュニケーションや問題解決のために、主体的に情報を整理したり、わかりやすく伝達したり、操作性を高めたりする努力をすることができる。 ・情報をわかりやすく伝達するために、文字や図、表やグラフなどを工夫して表現できる。			
	○			・アナログとデジタルの違い、2進数と情報量の関係について理解できる。 ・数値や文字をデジタル化、静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解できる。 ・情報のデータの計算とデータ量を小さくする方法について理解できる。 ・コンピュータの構成や動作、情報機器の接続、ソフトウェアの種類について理解できる。 ・コンピュータでの数値の計算方法、コンピュータの演算の仕組みを理解できる。			
前期末	3章 情報のデジタル化とコンピュータ	・情報のデジタル表現 ・コンピュータの仕組みと動作 ・実習	○			・2進数と情報量の関係について説明できる。 ・情報量を適切な単位で表現したり変換したりできる。 ・目的に応じてデータ圧縮のファイル形式を適切に選択できる。 ・コンピュータを構成する各装置や情報機器の関係を考え適切に接続することができる。	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度 ④実習の取り組み
			○			・数値・文字・音声・画像などのデジタル化の仕組みについて関心を示し、これらのデジタル化された情報を適切に活用することができる。	
	○			・情報通信ネットワークの構成、ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解できる。 ・IPアドレスとドメイン名について理解できる。 ・ネットワークを通じてデータを効率的に転送できる。 ・情報セキュリティの脅威に対するさまざまな安全対策について理解できる。 ・情報を安全に取り扱うための技術について理解できる。 ・社会の中で活用されている情報システムについて理解できる。 ・身のまわりの情報システム、データベースの種類とその仕組みについて理解できる。			
	○			・インターネットにおける情報伝達の仕組みについて説明することができる。 ・情報セキュリティの脅威の例をあげて、その原因について説明することができる。 ・アクセス制御について説明することができる。 ・インターネットの仕組みやサービスに興味・関心をもち、転送速度の向上や誤りを検出することができる。 ・自ら管理している情報機器の情報セキュリティに関するリスクを軽減するための方法を考えることができる。			
後期中間	5章 情報通信ネットワークとセキュリティ	・情報通信ネットワーク ・情報セキュリティ ・情報システム ・実習	○			・データを収集したり整理したりする方法について理解できる。 ・表計算ソフトウェアを使用して基本的なデータ処理を行うことができる。 ・データを適切なグラフや図に表現できる。 ・モデル化の意味、モデル化の手順について理解できる。 ・シミュレーションの手順と方法について理解できる。 ・確率的モデルのシミュレーション、問題解決のためにモデル化とシミュレーションを活用することができる。	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度 ④実習の取り組み
			○			・各尺度・変数の性質について理解し、適切に分類することができる。 ・問題解決の目的や条件にしたがって表計算ソフトを活用することができる。 ・因果関係や相関関係などに着目して、データ分析をすることができる。	
	○			・問題解決のため、表計算ソフトウェアなどを用いて収集した情報を処理したり、グラフで可視化することができる。			
	○			・アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解できる。 ・プログラミングの手順とプログラミング言語の種類とその特徴について理解できる。 ・変数を使用したプログラムを作成できる。関数を使用したプログラムを作成できる。 ・多くのデータから目的のデータを探し出し、数値を並べ替えたりするプログラムを作成することができる。			
後期末	6章 データの活用とシミュレーション	・データの活用 ・モデルとシミュレーション ・シミュレーションの実践 ・実習	○			・適切なアルゴリズムをフローチャートで表現できる。 ・適切かつ効率的なプログラミングを作成することができる。	①定期考査・小テスト ②課題・提出物 ③授業態度 ④実習の取り組み
			○			・コーディングしたプログラムを実際に入力実行することができる。 ・表計算ソフトを使ってデータの処理とグラフを用いた分かりやすい文書作成ができる。	
	○						
	○						

評価の重み付け

学期	評価の観点	重み付け	考査	考査以外
前期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
前期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期中間	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30
後期末	知識・技能	35	25	10
	思考・判断・表現	35	25	10
	主体的に学習に取り組む態度	30	0	30